

奈良県在宅就業支援事業受講生を対象とした
アンケート 結果(第4回・修了時)

2011.6.24

株式会社ワイズスタッフ

- 調査対象者
奈良県 就労困難者在宅就業支援事業受講生 17名

- 調査期間
2011年5月27日～6月3日

- 有効回答数
11 ※今回は任意参加アンケートとして実施(回答率 65%)

- 回答者属性
今回の在宅就業支援事業は、奈良県在住のひとり親や障害者が対象。
ひとり親:8名(全体の73%)
障害者 :4名(全体の36%)
※1名が両方に該当

- 調査会社
株式会社ワイズスタッフ
※奈良県から委託を受け、株式会社ワイズスタッフが調査を実施しました。

訓練終了時の今回調査、および昨年の訓練開始以降の調査結果推移を以下にまとめた。

学習内容の難易度アップと受講生の負担増について ※P4~7参照

- 自宅学習への取り組み頻度は、特に訓練期間後半では「平日は毎日、休日も取り組むことが多い」という受講生が大部分を占め、「休日以外は毎日取り組む」受講生と合わせると、回答者のほとんどがコンスタントに学習に取り組んでいる。
- 一方で、訓練期間後半には、学習時間の確保と、仕事や家事・育児との両立に負担感を感じる受講生が増加。これは、訓練開始時と比べ、学習内容の難易度が上がったことに加え、OJT学習も並行して実施するなど、実務を意識した内容へ移行したことからくるプレッシャーなどが影響していると考えられる。
こうした状況の中で、最後まで受講を継続させるために、受講生のモチベーションを維持する対策が非常に重要であることが、あらためて確認された。

eラーニング継続のモチベーションを維持させる仕組みについて ※P6・9参照

- これまでの調査結果より、今回の訓練で取り入れた「集合研修」や「eクラスルーム」といった仕組みが、トレーナー（PM）によるきめ細やかなサポートや、受講生同士のスムーズなコミュニケーションを促し、受講生のモチベーション維持に大きな効果をもたらしたことが検証できた。
- 訓練開始当初は、訓練への参加そのものが「学ぶ楽しさ」「充実感」につながり受講の励みとなっていたが、訓練を重ねるにつれてその割合は減少。代わって「成績向上、力がついてきたという実感」が受講生のモチベーション維持につながっていることがわかった。

スキルアップとともに「在宅就業の実態」への理解が進む ※P12-14参照

- 訓練参加によるスキルアップを実感している受講生が増えている一方で、訓練終了後は「在宅ワークだけ」ではなく、「外勤と在宅ワークの両立」を目指したいという受講生の割合が増加。
- OJTなどの就業体験を通じて、在宅就業で収入を得ていくにはさらなるスキルアップが必要である点や、子育てと仕事を自宅で両立させる難しさ等を実感する受講生が多い。
- より現実的な視点から在宅就業について考えるようになるなど、在宅就業に対する受講生の理解が進んでいる様子が見えられた。

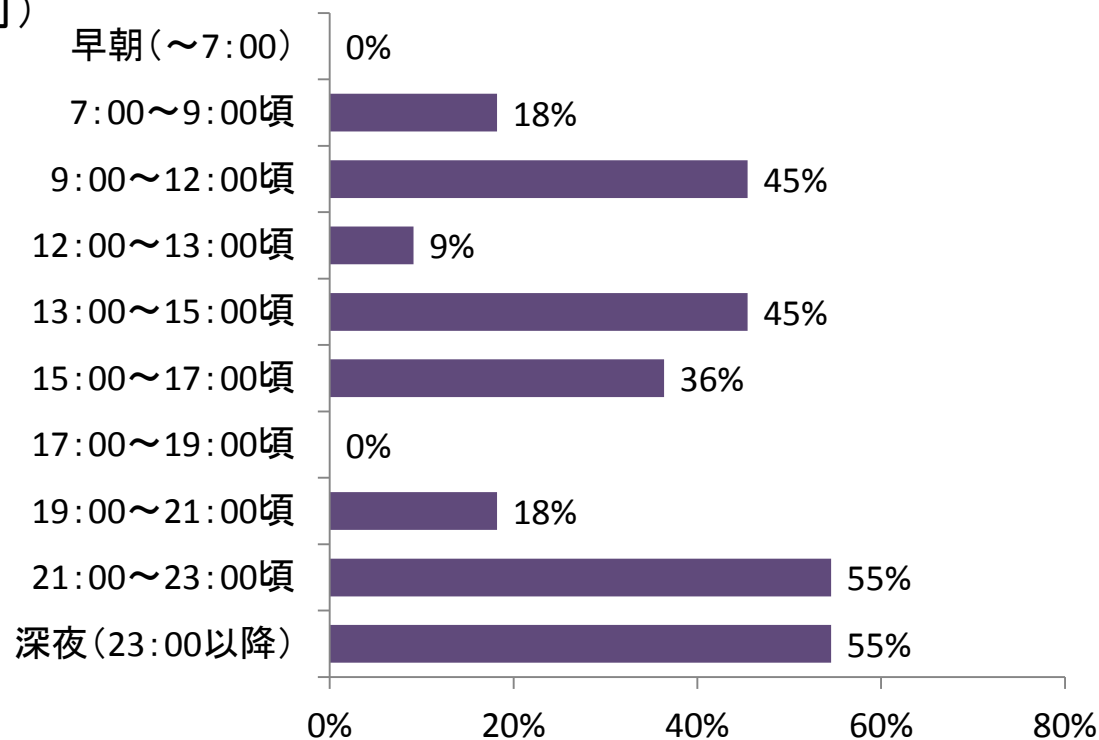
就業への意識・スキルアップに加え、生活改善効果をもたらしている ※P11・16・17参照

- 調査に協力した受講生のほとんどが「訓練に参加して良かった」と回答した。
- 今回の訓練を受講したことで、変わったと思うところ(生活・知識・学習意欲・仕事意識など)があるかたずねると、調査に協力した受講生のほとんどが自身に良い変化を感じていた。
例) 「具体的な目標を持てた」「自己解決力が身についた」
「働いて自立したい」「訓練で身につけたスキルを生かした仕事をしたい」
- そのほか、「日々の生活にハリが出た」「忙しくなったことで、かえって子どもとの時間を大切にできるようになった」「時間の使い方を考えるようになった」など、生活全般にわたって、様々な向上効果を確認することができた。

eラーニングによる自宅学習の受講状況1

- 自宅でのeラーニングの取り組み時間としては、「21:00～23:00頃」「深夜(23:00以降)」がそれぞれ55%と夜間帯が多い。
- 次いで「9:00～12:00頃」「13:00～15:00頃」と子どもが学校に行っている時間帯の取り組みが多かった。

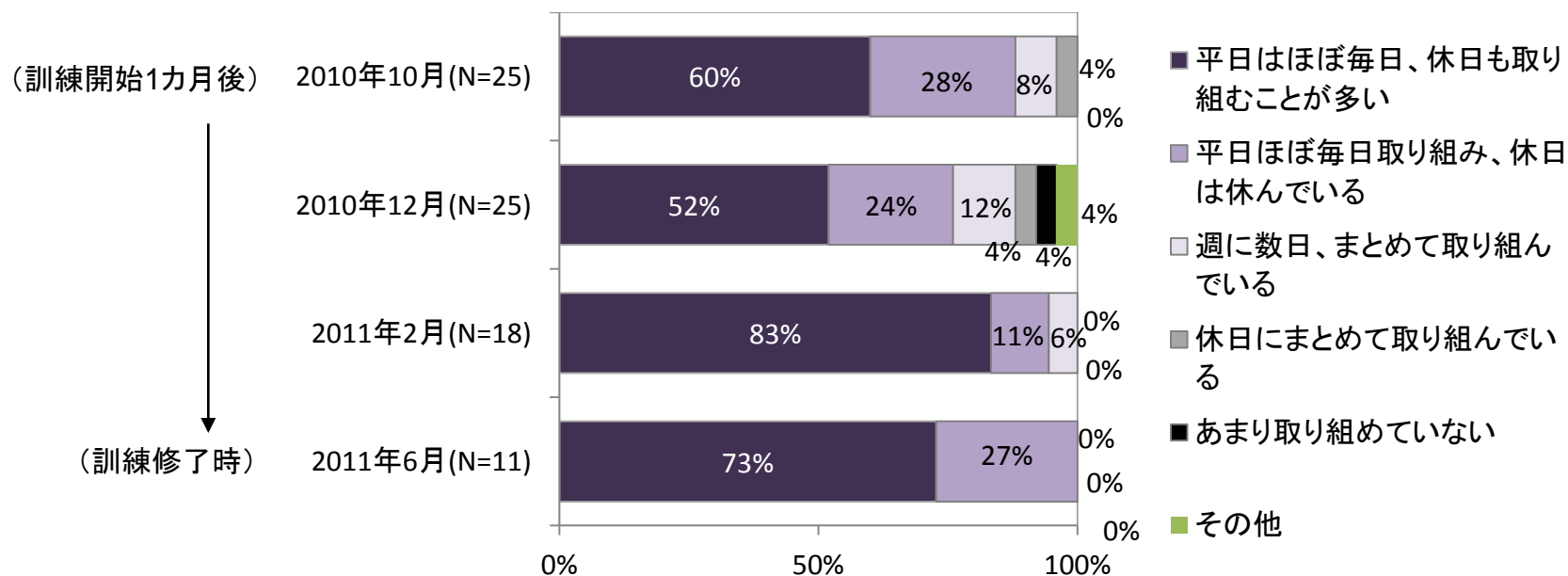
■ 平日の主な取り組み時間 (N=11 5項目まで選択可)



eラーニングによる自宅学習の受講状況2

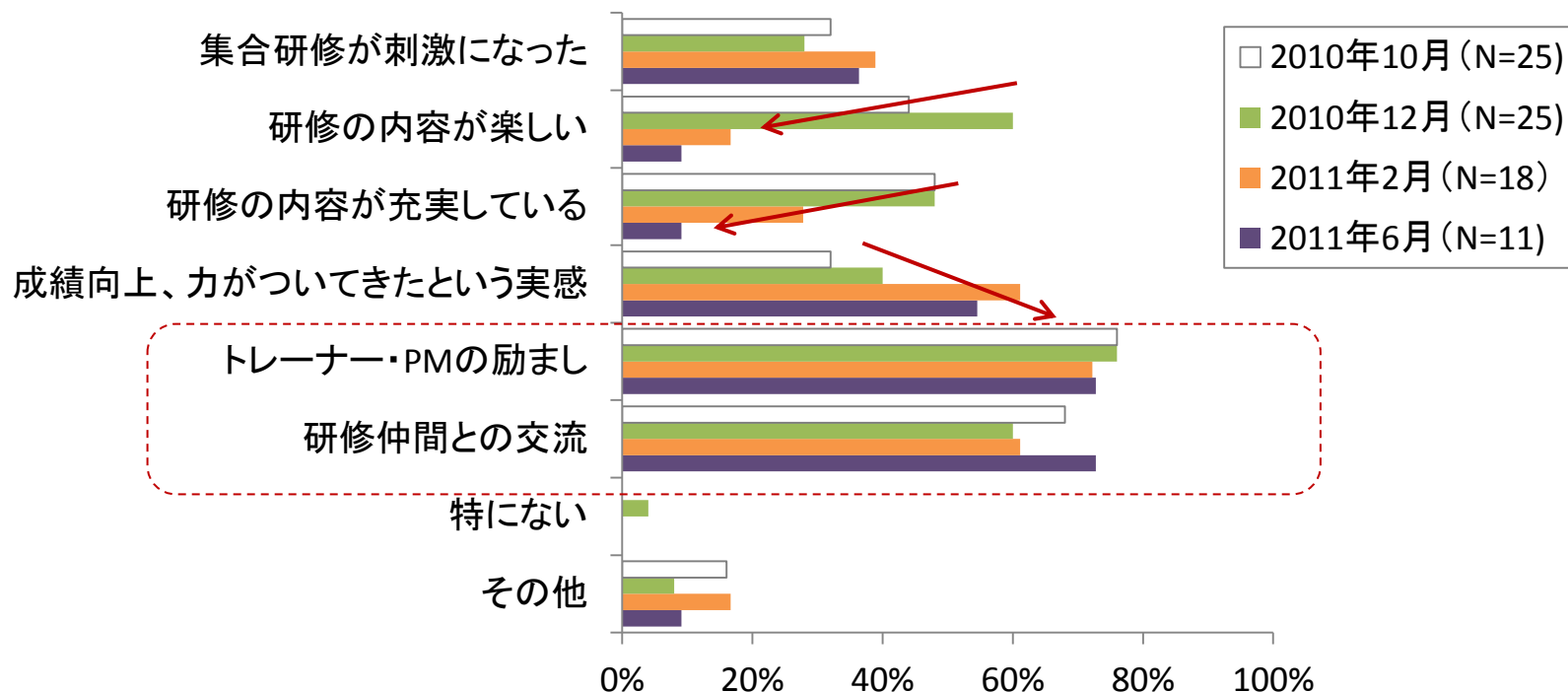
- 「平日はほぼ毎日、休日も取り組むことが多い」という受講生が7割を占め、受講生がコンスタントに学習に取り組んでいる一方で、平日の取り組みだけでは対応しきれない様子が見えてくる。
- 同選択肢を選ぶ受講生の割合は、訓練開始1カ月後(2010年10月)の調査結果から比べて増加傾向にあり、訓練内容の難易度アップやOJTの実施などが影響していると考えられる。

■ 平日・休日の取り組み状況の推移



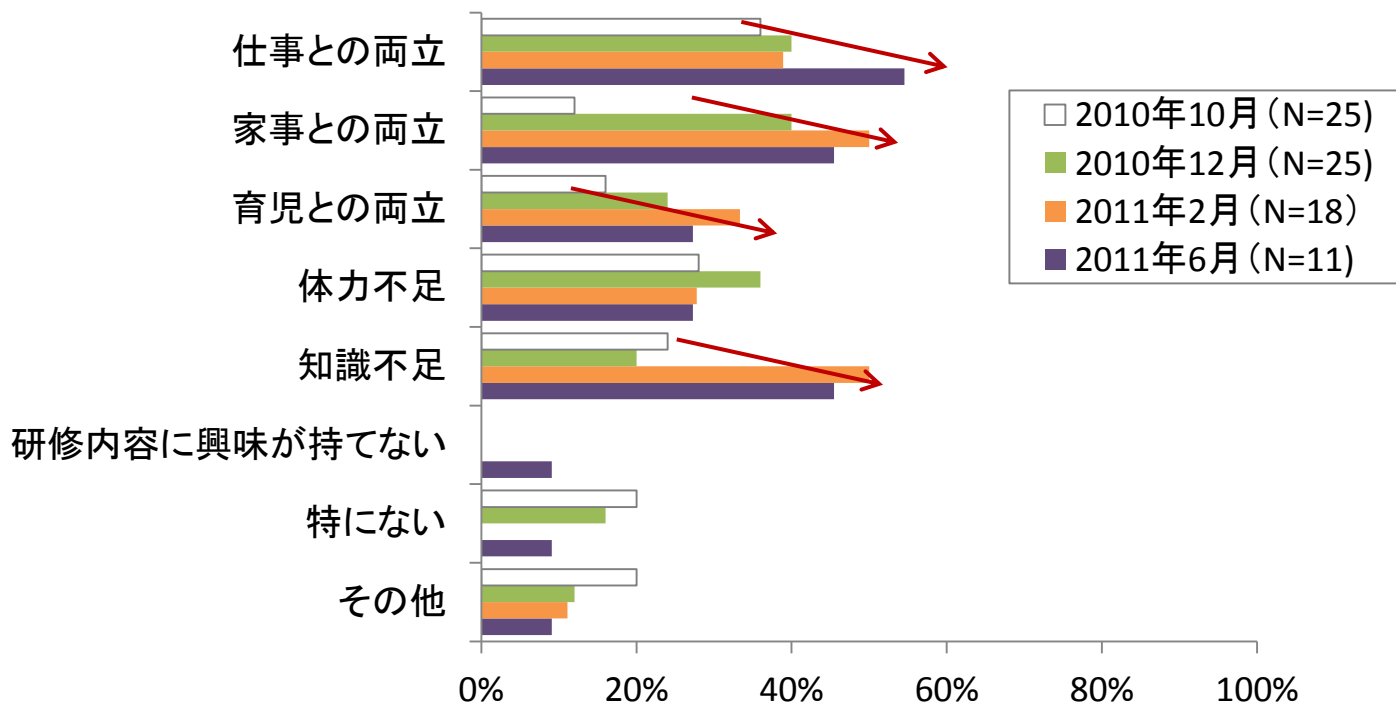
- 自宅学習に取り組む受講生が孤独にならないように整えられた、ネット上の「eクラスルーム」などが功を奏し、訓練期間を通じて「トレーナー（応用訓練からはPM）の励まし」や「訓練仲間との交流」が訓練参加の励みとなったという声が多かった。
- 訓練開始当初は、研修内容の楽しさや充実感を受講の励みとする声も多かったが、訓練を重ねるにつれてその割合は減り、代わって「成績向上、力がついてきたという実感」が受講生のモチベーション維持につながっていることがわかった。

■「受講の励み」とその推移



- 仕事や家事、育児との両立に負担を感じたり、知識不足への不安を抱える受講生の割合は、訓練期間が長くなるにつれ増える傾向がみられた。
- 訓練内容の難易度が次第に高くなり、OJTが加わるなど受講生の負担が増えていることや、訓練開始当初の緊張感が消え、仕事と子育て等を自宅で両立させる難しさを痛感していったことも影響していると推察される。とはいえ、前述のようにトレーナー（PM）や受講生同士の支えもあって、学習時間の確保に苦労している以外では、訓練の妨げになる要素は少ないといえる。

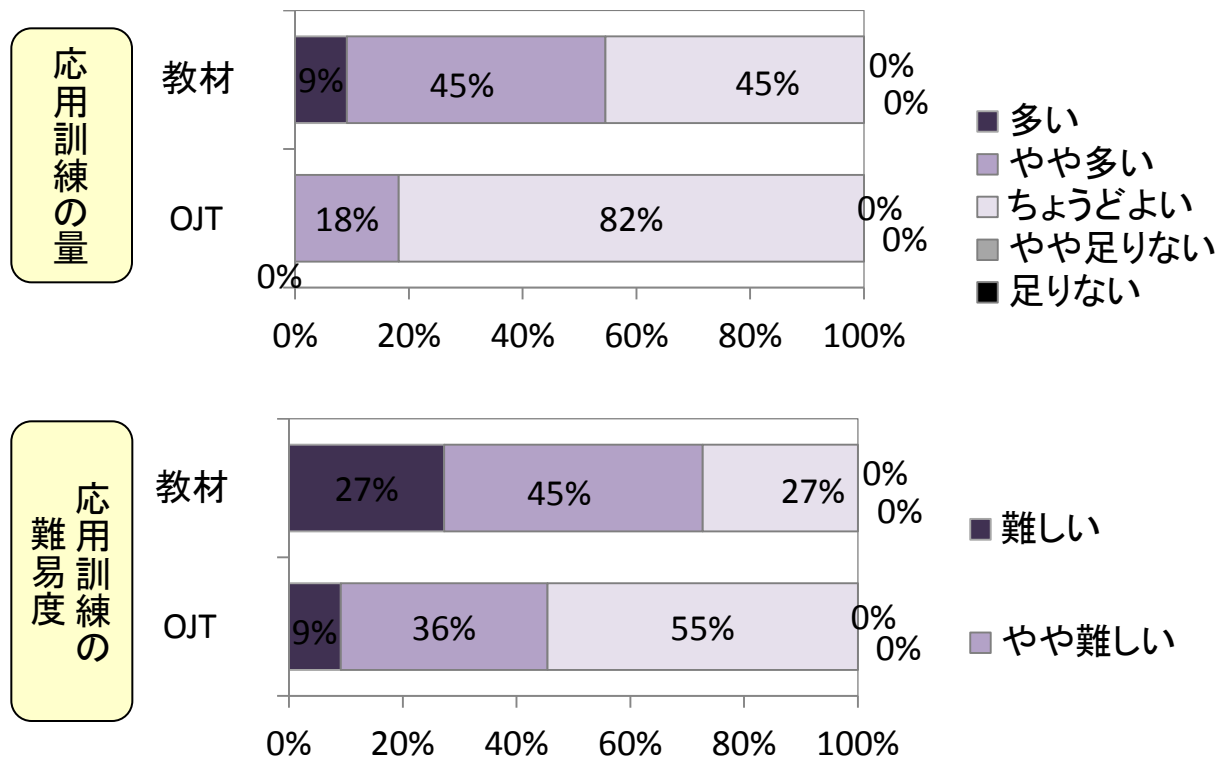
■「受講の妨げ」とその推移



応用訓練に対する受講生の評価1

- 応用訓練教材の量は「多い」「やや多い」と感じる受講生が半数以上あったが、OJTについては「ちょうどよい」が8割を占めた。また、訓練教材の難易度は「難しい」「やや難しい」という回答が7割と多かったが、OJTでは半数以上が「ちょうどよい」と回答した。
- 訓練中の受講生の様子を見ながら、受講生のレベルに応じたOJT業務内容の設定が行われたことが、これらの高評価につながったと考えられる。

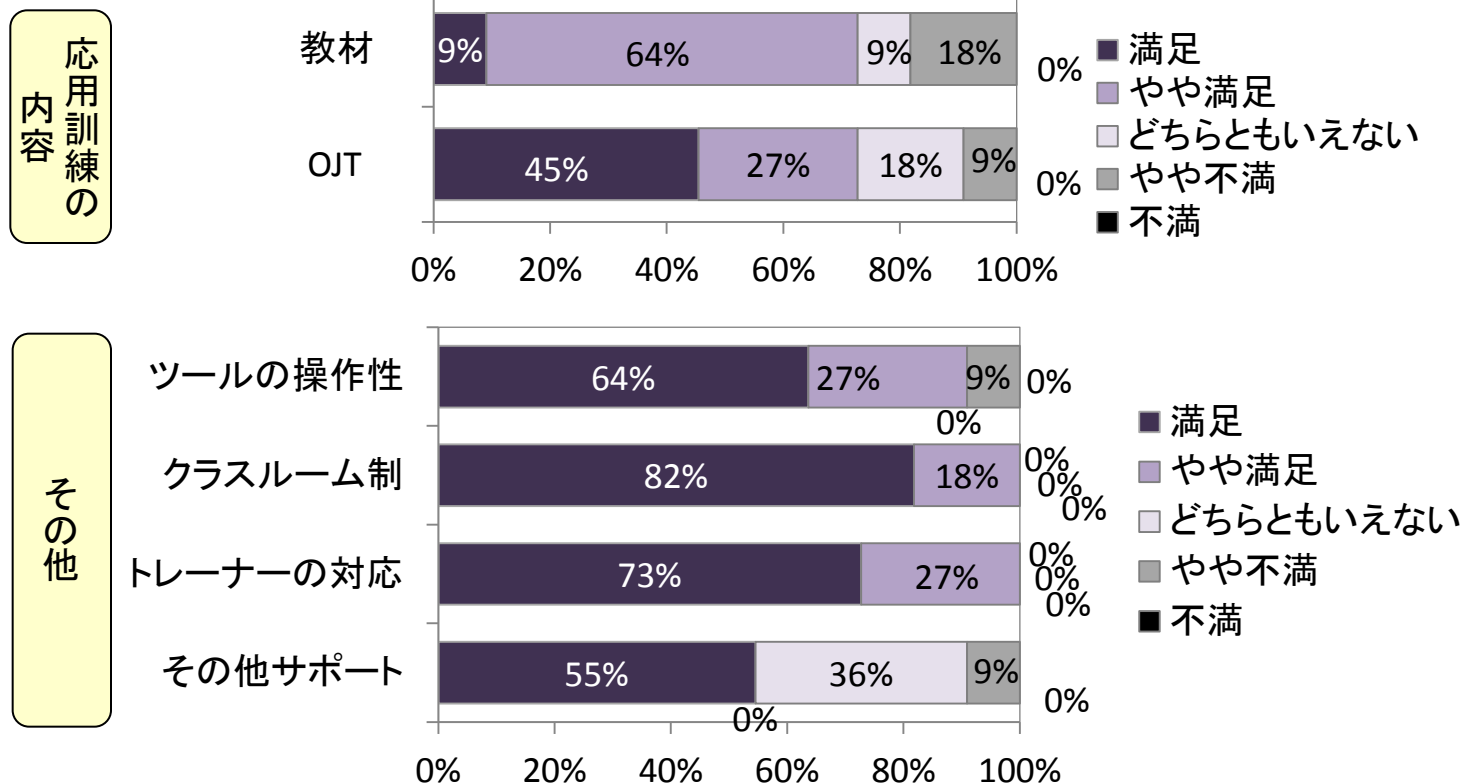
■ 受講生評価(すべて N=11)



応用訓練に対する受講生の評価2

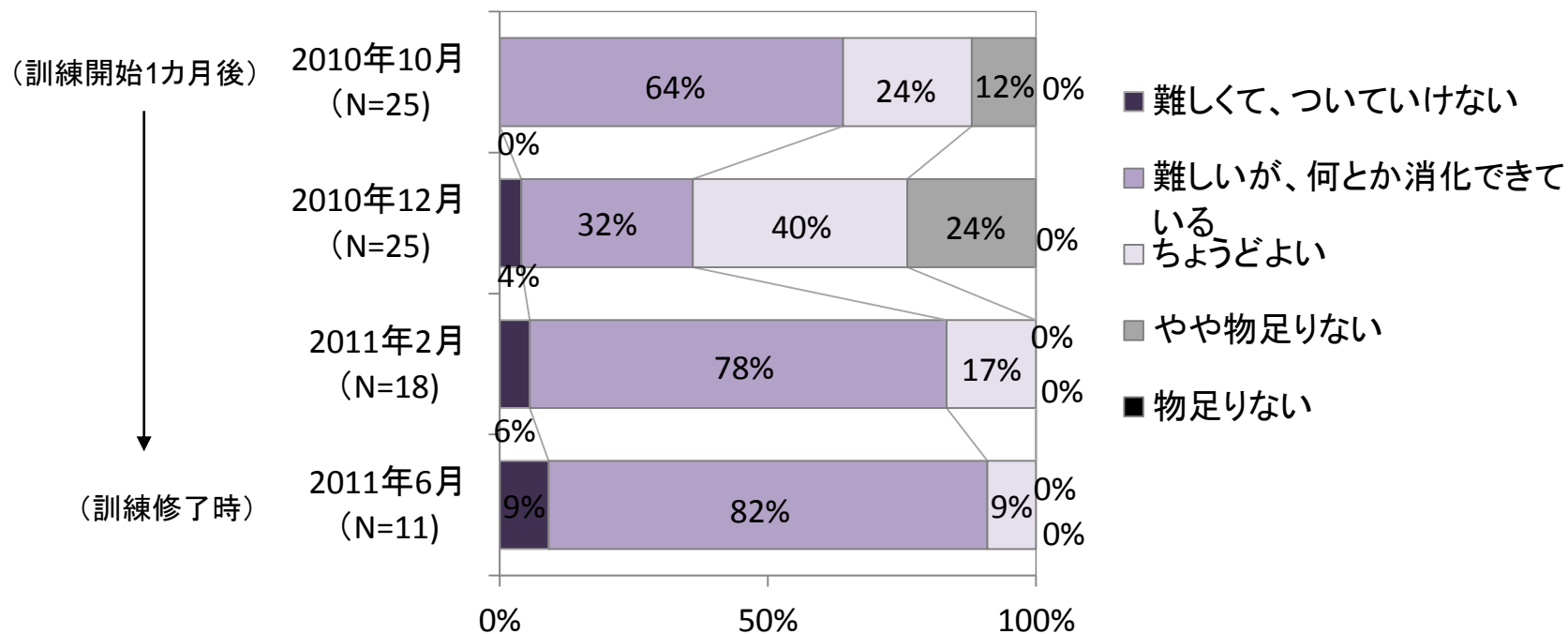
- 応用訓練教材の内容についても7割が肯定評価をしており、特にOJTで満足度が高かった。実際の就業を意識した訓練内容を経験することが、より現実的な視点から在宅就業について考えたり、在宅就業を理解することへの助けになった様子がうかがえる。
- 訓練の進め方などについては肯定評価が多く、特に「トレーナーの対応」「クラスルーム制」への評価が高い点が目立った。

■ 受講生評価(すべて N=11)



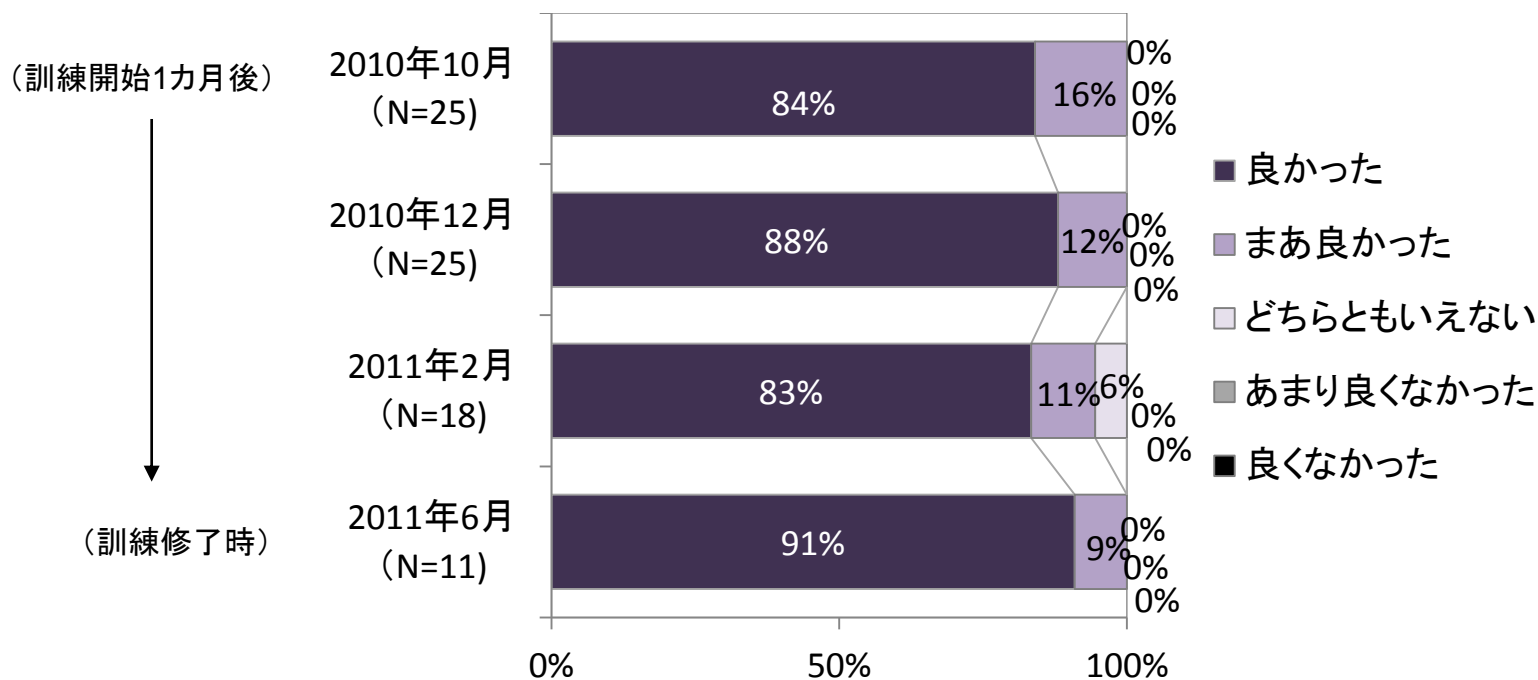
■ 訓練の内容について、昨年10月（訓練開始1カ月後）の調査結果では「やや物足りない」という評価もあったが、訓練が進み難易度が上がるにつれて、「難しいが、何とか消化できている」という回答が大部分を占めるようになり、訓練修了時（2011年6月）では8割にのぼった。

■「訓練についていけている」と感じているか



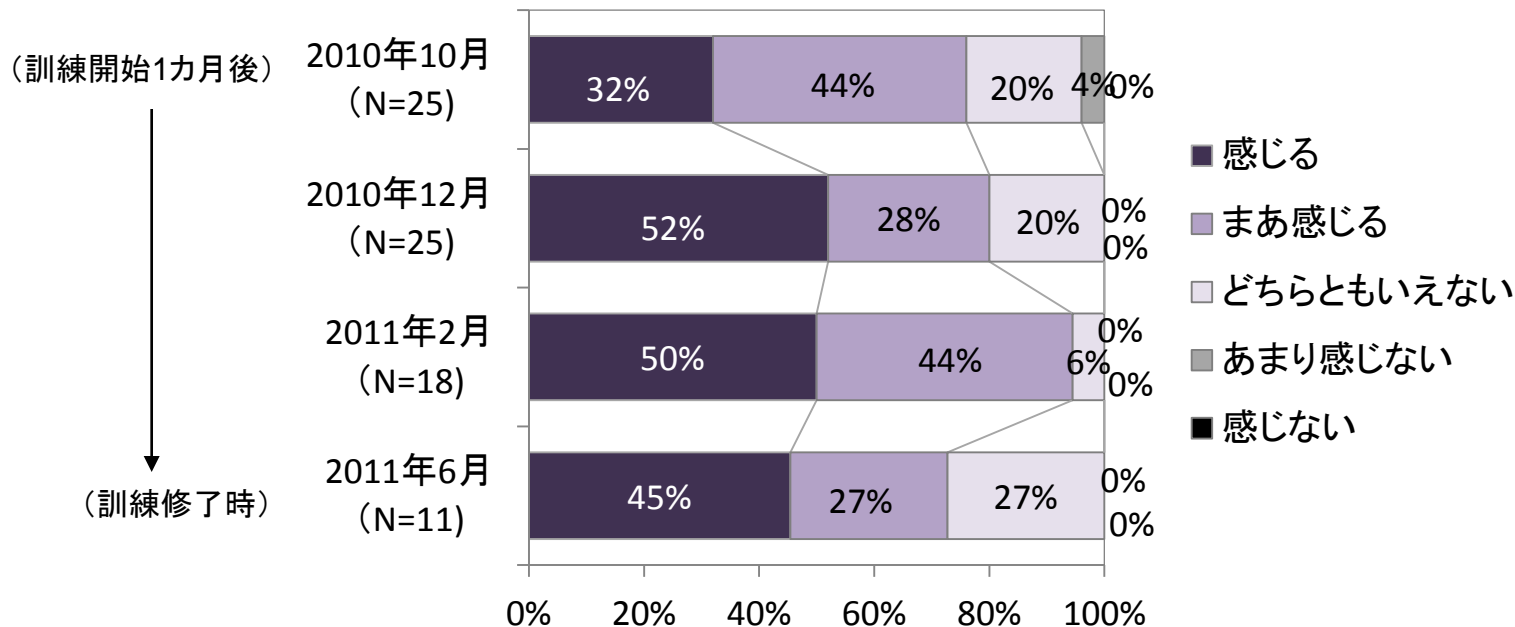
■ 受講生が訓練参加についてどのような意識を持っているか確認したところ、訓練期間を通じて「参加して良かった」という評価が大部分を占める。訓練終了時の今回の調査では9割を超え、最も高くなった。

■「訓練に参加して良かった」と感じているか



- 訓練に参加して、在宅就労の技術が身についてきていると感じるか？という問いに対し、訓練終了時(2011年6月)では「感じる」「まあ感じる」という回答が7割を占めた。
- 2011年2月時点での調査結果と比べると、「どちらともいえない」という回答の割合が増加しているが、これらの受講生は、全員、「研修参加の妨げとなっていること」として自身の「知識不足」をあげている。
訓練やOJTの内容が実務を意識した難易度に近づくに従い、その対応に苦勞し、在宅就業で収入を得ていくにはさらなるスキルアップが必要であることを痛感している様子が見えてくる。

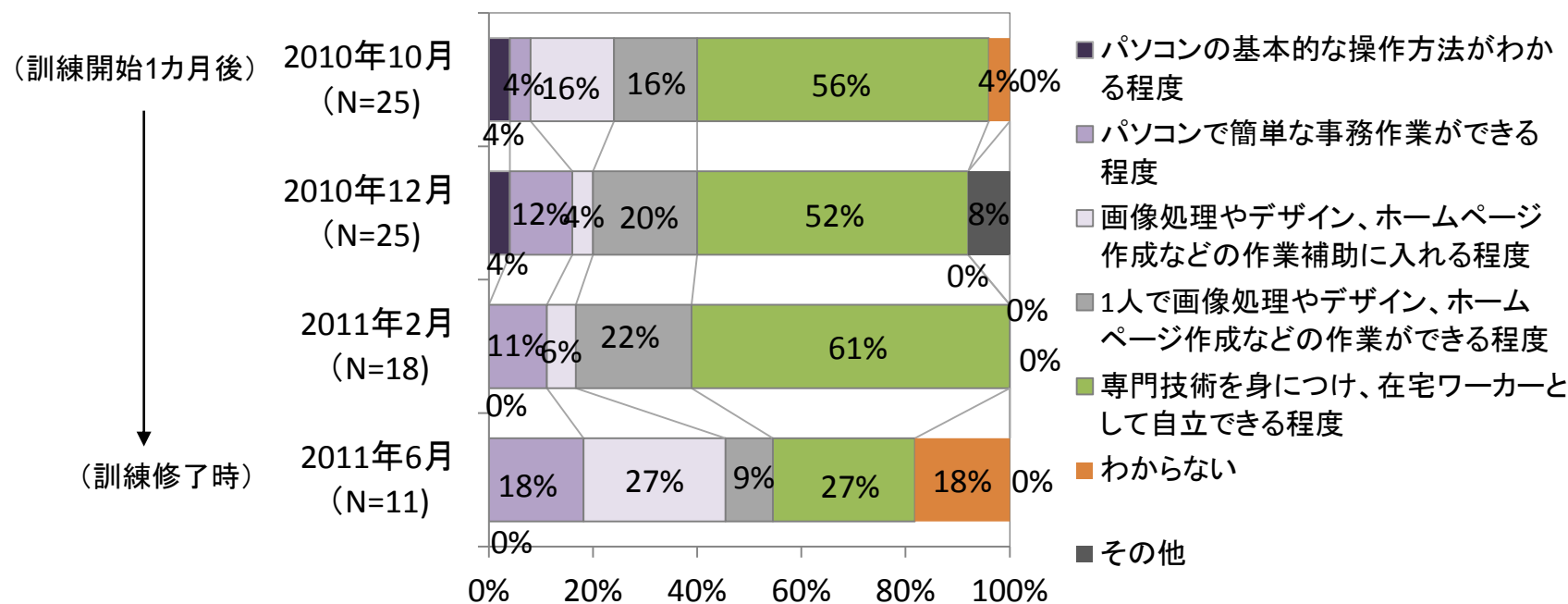
■ 在宅就労の技術が身についてきていると感じるか



訓練によるスキルアップへの期待度

- 今回の訓練でどの程度までスキルアップしたいと考えているかをたずねたところ、修了時(2011年6月)調査では、これまで多かった「在宅ワーカーとして自立できる程度」という選択肢以外に、「作業補助に入れる程度」と回答する受講生の割合が増える結果となった。
- 過去の調査結果と比べ、到達レベルの設定を下げる受講生が目立つ。これは応用訓練やOJTなどの経験を通じて、自身のスキルに対する認識や家事や育児との両立の難しさなどを理解し、より現実的な視点から在宅就業について考えるようになった結果であると推察できる。

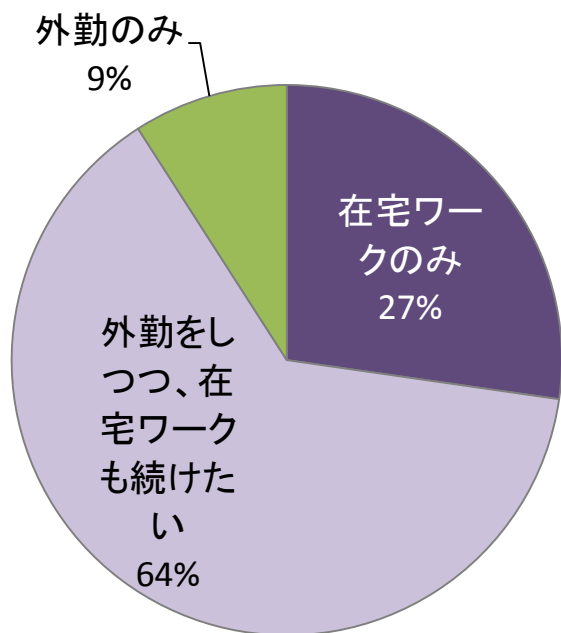
■ 訓練での習得を目指すスキルレベル



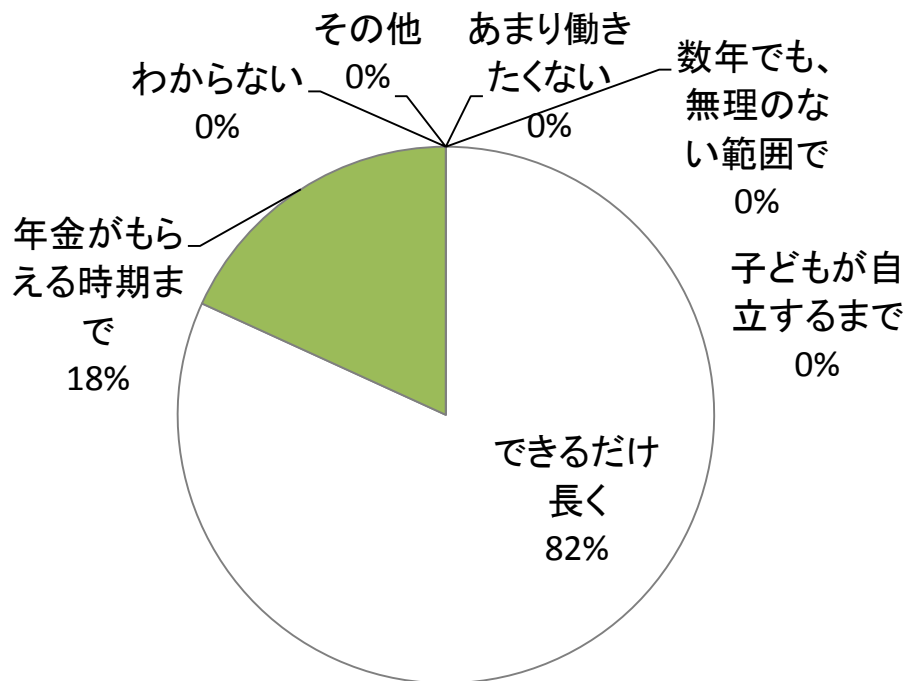
訓練修了後の就業希望

- 訓練終了後の就業について、現在のイメージを聞いてみると、「在宅ワークのみ」とした受講生は27%。回答者全体の64%が「外勤をしつつ、在宅ワークも続けたい」と回答した。
- また「できるだけ長く」「年金がもらえる時期まで」働きたいという回答者が大部分を占め、就業継続への意欲は高いものとなっている。

■ 受講後の就業スタイル希望 (N=11)



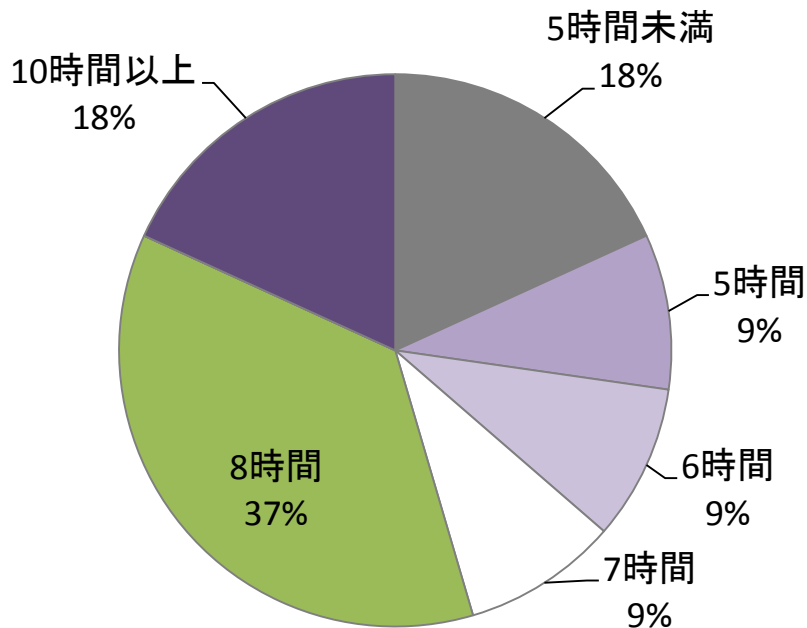
■ 受講後の就業継続意向 (N=11)



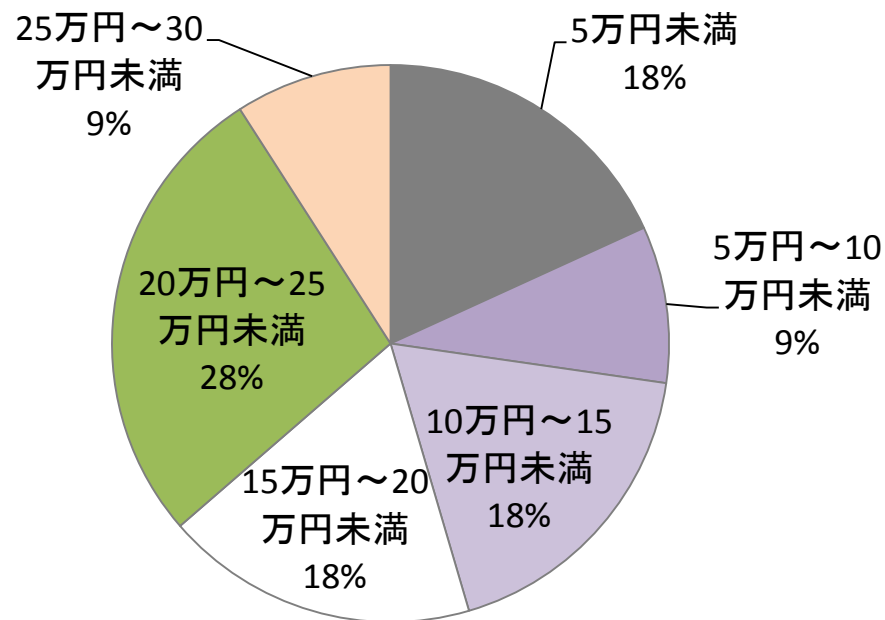
今後希望する就業イメージ

■ 外勤・在宅ワーク共に含めての就業時間希望は、8時間以上のフルタイム就業を希望する人が半数以上を占める。希望収入は外勤・在宅をあわせて「20万円～25万円未満」とする回答が28%とやや多かった。

■ 受講後の希望就業時間(N=11)
※外勤、在宅ワーク共 含める



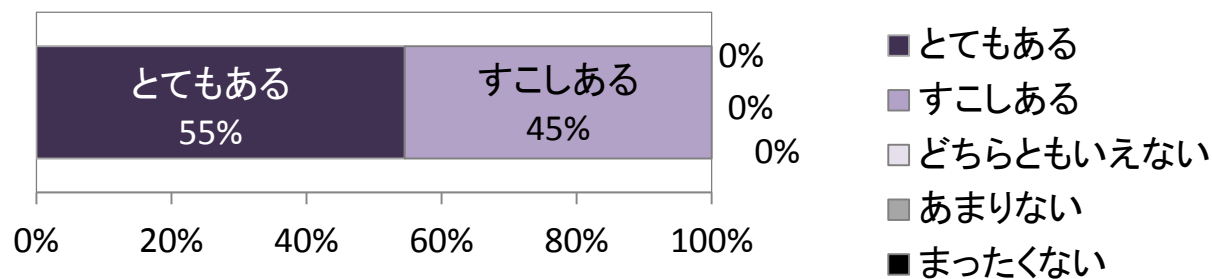
■ 受講後の希望月収(N=11)
※外勤、在宅ワーク共 含める



■ ここまでの訓練を受けてきて、変わったと思うところ（生活・知識・学習意欲・仕事意識など）があるかたずねると、「とてもある」が55%、「すこしある」が45%。

程度の差はあるものの、回答者全員が何らかの影響があったと回答した。

■ 訓練の受講で変わったと思うところがあるか（N=11）



訓練参加の影響と効果（受講生コメント）

- 訓練に参加したことによる影響の内容を聞くと、「訓練で身につけたスキルを役立てて仕事がしたい」「働いて自立したい」「自己解決力が身についた」といった声のほか、生活全般にわたって、様々な向上効果を確認することができた。
- 反面、体調面での辛さや、業務内容によっては作業単価が低い点など、在宅就業の厳しさを知ったという声も散見された。

■ 変化の内容（以下は自由回答の整理結果、重複該当あり）

	人数	%
学習・就業・生活への意欲・姿勢の改善	8	72.7
研修後の就業を意識する気持ちが強まった	3	27.3
PCスキルが身についてきた	5	45.5
その他	2	18.2

■ 変化の内容(自由回答)例

- 目標を持って学ぶということができるようになったことが、研修を受けて変わったところだと思います。かなりしんどい時もありましたが、いずれ在宅で働きたいという意欲が、学習を続ける気力になったと感じています。
- 時間がない分、家事などをてきぱきと片付けるようになりました。応用訓練では「わからないことをすぐ聞くのではなく、自分でネットなどで調べてから、それでもわからなければ質問してください」と言われていました。それがよかったと思います。
自分で解決する力を付けていただけたと思います。
- 学習したいと前向きになった。学習したことを、勤務に生かしたい。働いて自立したいと考えています。
- 時間配分や優先順位を考えるようになった。
- これまで学んできたことを無駄にしないようさらにスキルアップし、在宅、外勤問わず、知識を生かせる仕事に就きたいと思います。
- 生活リズムの規則性がよりよくなり、知識の幅も広がりました。
- 毎日パソコンをさわっているので、パソコンの知識がずいぶん身についたと思う。その反面、肩こりや腰痛、頭痛など、体調の面で辛さが増しました。
- パソコンでの仕事は全く興味がありませんでしたが、事務的な補助などで使用する分にはスキルがアップしたと思います。在宅ワーカーとして自立できるほどにはまだなっていないため「少しある」にチェックしました。入力業務の単価の低さにびっくりしました。